

好業績と好需給が米国株上昇の原動力に



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 「好業績」と「好需給」がポイントに

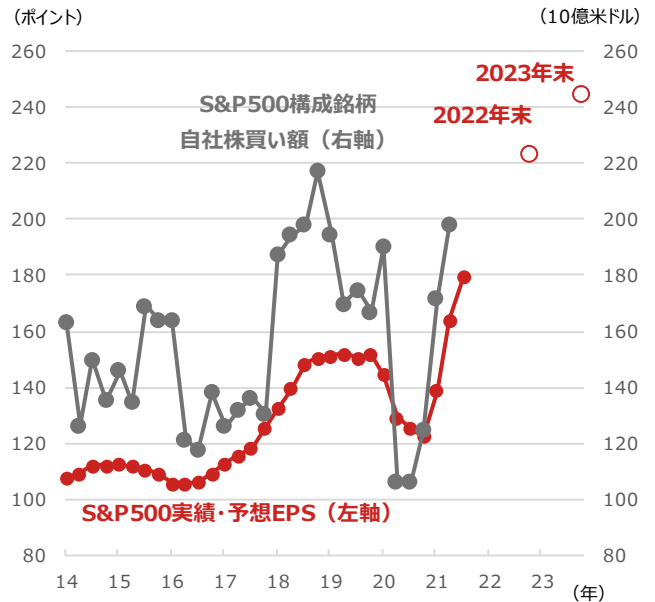
S&P500種株価指数が史上最高値圏での推移が続くなど、米国株の強さが目立ちます。米国株高を支えている背景には「好業績」と「好需給」という2つのキーワードが挙げられます。S&P500構成銘柄の2021年第3四半期決算は予想を上回る好内容となっており、好業績を評価した買いが改めて入っていることが株価を押し上げているとみられます。さらにここ数四半期の業績拡大を背景に、自社株買いが膨らんでいることも、需給面で相場全体や市場心理を支えていると考えられます。EPS（一株当たり利益）と自社株買い額は連動する傾向があり、とりわけ企業業績が拡大する場面で自社株買いが膨らんでいることがわかります（右上図）。

S&P500構成銘柄のEPS予想をみると2023年にかけてさらに拡大すると想定されています。直近4四半期（1年）における自社株買い金額は、6,000億米ドル超となっていますが、利益拡大が今後も継続するならば、今後も年間ベースでさらに自社株買い規模が膨らむことも考えられます。

ポイント② 積み上がる膨大な待機資金

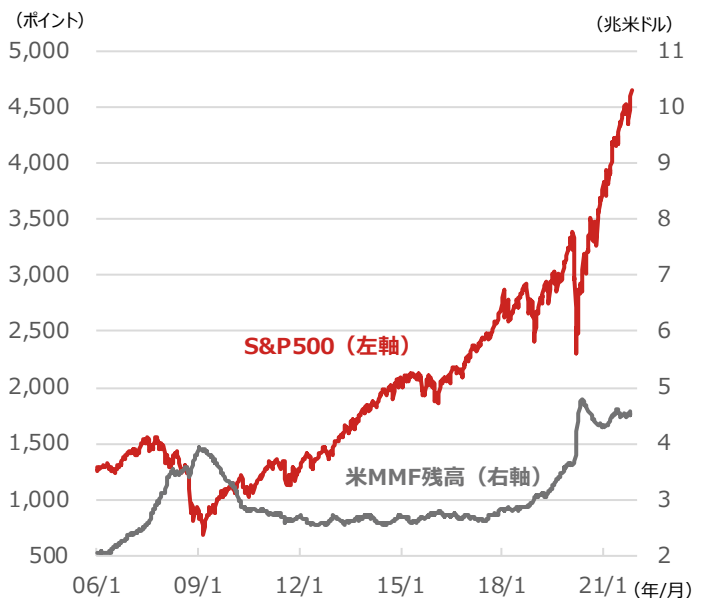
待機資金とみられるMMF（マネー・マーケット・ファンド）残高が高水準に積み上がっている（10月29日時点で約4.6兆米ドル、右下図）ことも、今後の米国株を見る上で重要なポイントといえます。FRB（米連邦準備制度理事会）はテーパリング（量的金融緩和の段階的縮小）を決定しましたが、米実質金利が大幅なマイナスで推移する中、リスク資産に投資資金が向かいやすい状況に変わりはありません。米国株を取り巻く環境は良好といえ、S&P500種株価指数や利益成長期待が高いNASDAQ100などは引き続き魅力的な投資対象といえるでしょう。

S&P500実績・予想EPSと同構成銘柄の自社株買い額



期間：（自社株買い額）2014年第1四半期～2021年第2四半期、四半期
 （実績EPS）2014年第1四半期～2021年第3四半期、四半期
 ・○印の2022年末、2023年末の予想EPSはBloomberg予想（11月4日現在）
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500と米MMF残高



期間：（S&P500）2006年1月6日～2021年11月3日、週次
 （米MMF残高）2006年1月6日～2021年10月29日、週次
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全体の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。